

環境農業新聞購読方法

年3,000円

毎月15日発行

FAX、メールでお申し込み下さい。

郵便振替口座 00150-2-290578

環境農業新聞

メール:ecoagri@pure.ocn.ne.jp

自家採種の種が重要

日本豊受自然農主催

植物の生命力向上を

著名の講師、熱く語る

第2回日本の農業と
環境シンポジウム

日本の種と食は大丈夫か



シンポジウムに大勢の人が参加



由井代表



高橋氏



石井氏



山下氏



川田氏



板本氏



工藤氏



米丸氏



吉岡氏



吉田氏

農業生産法人日本豊受自然農主催の「第2回日本の農業と環境シンポジウム」が3月20日、21日の両日、京都リサーチパークサイエンスホールにおいて開催された。シンポジウムの模様を札幌、東京、名古屋、福岡、沖縄のサテライト会場にも中継され全国から大勢の人々が参加した。今回のテーマは「日本の種と食は大丈夫かー農業・環境・人・食におけるホメオパシーの可能性を考えるー」(2日目の模様は、要約しました)。

シンポジウムは最初に日本豊受自然農の農場の様子を映像で紹介。自然農は枯葉などを集めて何年もかけて作った土の作り方や、豊受自然農での自家採種の種にアクティブラントや野菜のためのマサチンクチャー、アクティブラントなどのようなものを使って育てていく様子。そして、これらで育った作物は、水だけで育った作物より、よく育っていることが映像で比較紹介された。

続いて、豊受自然農の農場の米丸久さん、野菜作りは、人間との二人三脚。人間が、どこまで支援するかのバランスが重要であること。そして、在来種・固有種を守ることが、これからの地産地消に必要であることと述べた。

豊受自然農の農場の古田誠さんは、自然農におけるホメオパシー・レメディの応用について発表。ホメオパシーの原理によって開発された、野菜のためのマサチンクチャー、アクティブラントなどのようなものを使って育てていく様子。そして、これらで育った作物は、水だけで育った作物より、よく育っていることが映像で比較紹介された。

講演は、日本豊受自然農の農場の工藤孝彦さん、農園の土壌を改良するための工夫や、日本古来の自然農法に戻そうとする取り組みが、大切であることを強調した。

続いて、豊受自然農の農場の米丸久さん、野菜作りは、人間との二人三脚。人間が、どこまで支援するかのバランスが重要であること。そして、在来種・固有種を守ることが、これからの地産地消に必要であることと述べた。

豊受自然農の農場の古田誠さんは、自然農におけるホメオパシー・レメディの応用について発表。ホメオパシーの原理によって開発された、野菜のためのマサチンクチャー、アクティブラントなどのようなものを使って育てていく様子。そして、これらで育った作物は、水だけで育った作物より、よく育っていることが映像で比較紹介された。

講演は、日本豊受自然農の農場の工藤孝彦さん、農園の土壌を改良するための工夫や、日本古来の自然農法に戻そうとする取り組みが、大切であることを強調した。

講演は、日本豊受自然農の農場の工藤孝彦さん、農園の土壌を改良するための工夫や、日本古来の自然農法に戻そうとする取り組みが、大切であることを強調した。



由井代表、太鼓を打ち鳴らし大会開始

トも発表され、特に、P.TSDや放射能の問題などにも触れられています」と述べた。会長のZ.E.Nメソッドによって、健康を大きく改善したケースも紹介され参加者は真剣に見つめ、ホメオパシーの可能性が心に響いた様子が見られた。

最後に由井代表の講演。「ホメオパシーは、バイタルフォースと呼ばれる概念があり、それは、植物と人間が共有することが大切である」と述べた。

閉会の挨拶に立った由井代表は「ホメオパシーは、植物の生命力を高めることが、人間の健康にもつながる。植物は、人間が食べるものだから、植物の生命力を高めることは、人間の健康のためにも大切である」と述べた。